

## 宇都宮市立清原北小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのように頑張っていると思いますか。」の質問では、肯定回答が100%であった。今後も学校行事等、児童が活躍する場を積極的に設け、児童の頑張りを認め、褒め、励ます指導を続けていく。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか。」の質問では、肯定回答が100%であった。今後も、学習相談タイムを活用したり、かがやきルーム指導員と連携を取りながら、個別の支援の充実を図る。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問では、肯定回答が100%であった。引き続き、いじめゼロ強調月間やいじめゼロ集会、道徳の授業などで指導を続けていきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の質問では、肯定回答が100%であった。普段から誰かのために働きたいという気持ちを持ち学校生活を過ごしていることが分かる。

○「友達関係に満足していますか。」という質問と、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」という質問では、肯定回答がともに100%であった。良好な友人関係を築き、互いに支え合い励まし合うことで、生活を豊かにしたり、学びを深めたりすることにつながっていると考えられる。今後も協力し合えるような雰囲気作りに努める。

●「国語(算数、英語)の勉強は好きですか。」の質問では、国語の肯定回答が63.2%、算数が73.6%、英語が73.7%で、国語については県よりも下回っている。また、「国語(算数、英語)の勉強は大切だと思いますか。」の質問では、国語の肯定回答が100%、算数と英語がともに94.8%で、大切だとは思っているが、勉強は好きではないということが分かる。授業の内容や形態を工夫し、児童が主体性をもって学習に取り組めるように指導の改善に努める。

●「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。」という質問では、肯定回答が47.4%であった。朝の放送や給食の献立発表など英語を使って発信することは日々あっても、相手とのやりとりといったコミュニケーションツールとしての英語の活用はないと感じている児童が多いことが分かった。「廊下などで出会った児童に教員が英語で話しかける。」「AETとの積極的なやりとり(一日一回質問や、週替わりでテーマを設定しての質問)を行う。」といった、学校体制で新たな取り組みを始めたところではあるが、今後児童がコミュニケーションツールとしての生きた英語を使えるような手立ての工夫を行い、楽しく取り組めるように指導していきたい。

●「家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。」という質問では、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回程度」と回答した児童が、それぞれ10.5%、5.3%、15.8%であったのに対して、「月1回程度」「月1回未満」「行っていない」と回答した児童が、それぞれ10.5%、31.6%、26.3%と合わせて68.4%であった。タブレットを活用して週に複数回英語を聞いたり話したりできるように、宿題の出し方を工夫し、繰り返し聞いたり話したりすることにつなげていく。

## 宇都宮市立清原北小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や成就感を高めるための指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高める導入の工夫や、めあての提示と見直し、学習の振り返りを徹底した授業づくり</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や授業展開の工夫</li> <li>・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国語(算数)の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、国語が89.5%、算数が94.7%と、肯定割合が全国を大きく上回っている。</li> <li>・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」という質問では、「ほぼ毎日」と「週3回以上」と回答した児童が、それぞれ47.4%と31.6%と全体の8割程度を占め、全国平均を大きく上回っている。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・児童質問紙において、「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。」の肯定割合が、国や県の平均を上回ってはいるものの、47.4%と半数以下にとどまった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員と児童との英語による会話</li> <li>・生活の中におけるAETとの積極的な会話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの英語の学習内容を掲示し、それに基づいて休み時間等に職員と英語で会話をする機会を設ける。</li> <li>・「一日一回は話す」「今週の質問」などと学級でテーマを決めて積極的なやりとりを促す。</li> </ul>